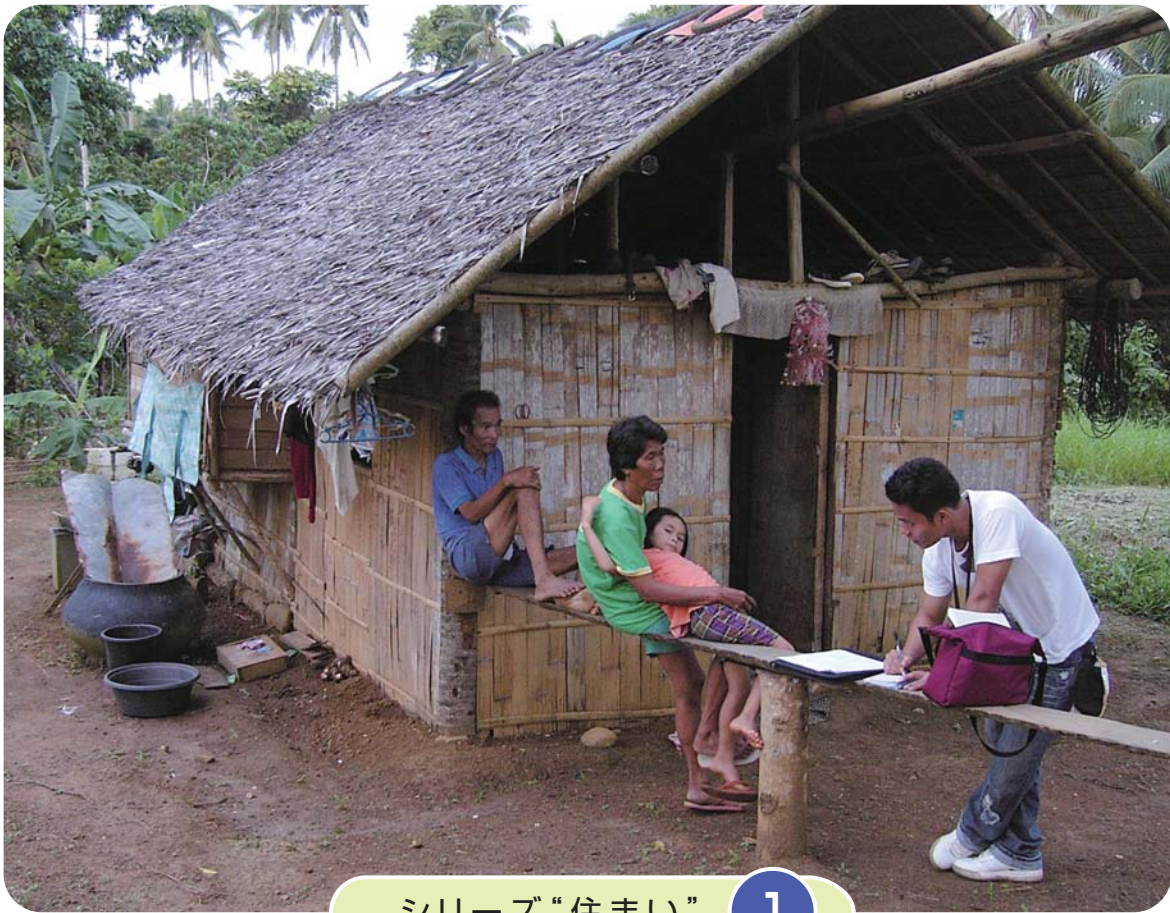


チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2011年9月NO.24

SMILES

<http://www.childfund.or.jp>



シリーズ“住まい”

1

日が沈むとベンチで夕涼み

壁と床は竹、屋根はニッパヤシの葉で作られており、電気、水道の設備はありません。
夕方になるとベンチでくつろぐ家族もいます。左側の軒下にあるのは古タイヤで
作った水がめ。トタン板で雨水を集めて洗濯などに使います。

写真:センター51(ミンダナオ島北サンボアンガ州)

ChildFund
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、
アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、
家族と地域の自立を目指した活動をしています。

～ スポンサーシップ・プログラムを支える人々 ～
特集
その1 **支援センター**

その1

支援センター

チャイルド・ファンド・ジャパンはチャイルドたちが生活する地域で「支援センター」を運営するパートナー団体と協力して、スポンサーの皆様のご支援をチャイルドたちに届けています。チャイルド・ファンド・ジャパンのスタッフが支援プログラムを実施したり、チャイルドに支援金を渡しているのではありません。支援センターは、スポンサーシップ・プログラムによる効果的な支援を実現するため大きな役割を担っています。今号では、フィリピンのカガヤン・デ・オロ市にある「ペドロ・カルンソッド・ピース・センター」(センター48)を例に、「支援センター」のスタッフの働きをご紹介します。



チャイルドたちに寄り添う

メイ・ダルマン・カバラバンさんは、現在フィリピンに18カ所ある支援センターで働くスタッフたちの中でもベテランのひとりです。大学でソーシャルワーク(社会福祉)を学び、1982年、当時セブ市にあった支援センターでチャイルドたちのケアをするスタッフとして働き始めました。それ以来、3カ所目となる現在の支援センターも含めて24年にわたって、チャイルドたちを支え続けています。

「スポンサーの皆様のご支援で学校に通い続けるチャイルドたちですが、様々な困難を経験しており、時おり胸が張り裂けそうになります」とメイさんは言います。

ある日、スポンサーのご支援を通して大学で勉強する*レジルの家庭を訪問しました。たまたま食事時で、レジルの食べているものに目をやると、おかずは全くなく、ご飯にお湯をかけて食べていたそうです。メイさんは、「残さず食べてね」というのが精一杯でした。こうした食事を毎日している訳ではないそうですが、両親の収入が少ない時には、家の食料も底をついてしまうそうです。

支援センターのスタッフたちは、チャイルドたちが学校を続けることができるように、また健康であるように、教育支援や医療サービスを提供します。それと同時に、メイさんがしているように、チャイルドの家庭を定期的に訪問してチャイルドを励まし、家族の関係を調整する役割も担っています。チャイルドたちが経験する貧しさに圧倒されながらも、私たちにできること、それは「チャイルドたちの声に耳を傾け、寄り添うことです」とメイさんは言います。



「チャイルドたちは本当に様々な困難を経験しています」と涙ぐんで話すワーカーのメイさん



メイさんとチャイルドとして大学に通うレジル

* 各センターから推薦され、大学へ進学するチャイルドがいます。(1センター当たり毎年4名まで)

平和を追い求めて

センター長のエルミンさん(44歳)は大学で土木工学を勉強しました。4年生の時、農産物を生産する多国籍企業に土地を奪われそうになった零細な農民を支援する活動に加わったことで、「進路が一変」したそうです。土木工学の国家試験に合格したものの、卒業後は、地域貢献活動をおこなう大学の付属機関に就職することにしました。大学が「社会の平和の構築を迫及する」ことを掲げており、それに共感して、学問領域ではなく地域社会という現場でその実現のため働こうと決心したからです。

チャイルドが直面する貧しさを改善していくためには、チャイルドたちの父親や母親の意識を変えてもらわないといけないことが多くあり、それには「時間と忍耐が必要」だそうです。貧しい人びとと共に歩むという「道」を選んだことに後悔はなく、これまでの歩みから「自分も大きく成長できた」とエルミンさんは語ってくれました。



「貧しい人の側に立つことが私の仕事」と語るセンター長のエルミンさん

力を合わせてチャイルドたちの生活を守る



住民組織のリーダーたちをサポートするスタッフのアーチャーさん(中央)

スポンサーの皆様の温かい想いやご支援は、支援センターのスタッフの活動を通してチャイルドたちに届けられています。チャイルドたちが貧しさの壁を乗り越えて学校で勉強し続けることができるのは、スポンサーの皆様と支援センターのスタッフが力を合わせた成果です。チャイルド・ファンド・ジャパンは、これからも皆様や支援センターと力を合わせて、チャイルドたちの生活を守ってまいります。引き続きご支援くださいますようお願い申し上げます。

(取材:事務局長 小林毅)

ペドロ・カルンソッド・ピース・センター

ここで紹介したセンター48は、ミンダナオ島北部の港湾都市であるカガン・デ・オロ市にあります。このセンターの運営団体は、イエズス会が経営するセイビア(ザビエル)大学(1933年設立)です。チャイルド・ファンド・ジャパンと2002年度から協力して、スポンサーシップ・プログラムを通して市内の貧しい地域の子どもたちに教育、医療、栄養改善の機会を提供しつつ、家族や地域の生活改善に取り組んでいます。

センター長のエルミンさん(左)とスタッフたち



Q. 「支援センター」を運営するパートナー団体をどのような基準で選ぶ?

- A. ①貧しさの中で生活することを余儀なくされている子どもたちがいる地域で活動していること ②その地域に行政サービスや他団体の活動が十分届いていないこと ③子どもたちが置かれている厳しい状況を真摯に改善しようとしていること ④チャイルド・ファンド・ジャパンが掲げるビジョンやミッションに共感し同意すること、などの基準で選んでいます。

あなたはひとりじゃない! 東日本大震災

3月11日に発生した東日本大震災により被災された方々に向けた緊急・復興支援活動チャイルド・ファンド・アライアンスの加盟団体からたくさんの協力が寄せられ、支援活

1 We are with you! ～あなたはひとりじゃない!～

被災地の子どもたちにメッセージと文房具などを送るプロジェクトです。

2 被災後の子どもの こころのケアの手引き

被災した子どもたちと向き合う大人のための手引きを作成し、配布しています。

3 こころの プロ

被災した子どもたちと講習会やワークショップ

今号では、**1**「We are with you! ～あなたはひとりじゃない!～」

1 「We are with you! ～あなたはひとりじゃない!～」

「被災した子どもたちにメッセージと文房具を贈ろう」と始まったこのプロジェクトですが、岩手県大船渡市のカトリック教会の集まりに参加した40名のフィリピン人と日本人の間に産まれた子どもたち、福島県南相馬市で大地震や津波に加えて原発事故の影響を受けた約1,500名の小学生たち、さらに大船渡市を始めとする岩手県沿岸部の被災地と周辺地域に暮らす約16,000名の小中学生たちへ届けることができました。応援のメッセージ・シートは、東京の幼稚園や小学校の子どもたち、そしてフィリピンとネパールのチャイルドたちが作成してくれました。

8月23日、大船渡市立大船渡小学校に応援メッセージと文房具などを届けました。大震災の当日、津波は大船渡小学校の校庭と校舎の1階の教室に押し寄せ、238名の生徒たちは塀を乗り越えて間一髪で高台に避難したそうです。しかし、1/3の生徒が自宅を流され、困難な生活を余儀なくされています。

贈呈セレモニーには、生徒を代表して生徒会のメンバー8名が校長室に集まってくれました。柏崎正明校長先生



から感謝のお言葉をいただき、その後、小林事務局長からメッセージと文房具の入ったバッグを手渡しました。校長先生からは、今回の文房具などは日本や海外のたくさんの子どもたちや人々の応援によって届けられたものだとの説明をしてくださりました。

生徒の皆さんからは、「これを使って一生懸命勉強します」、「メッセージをもらってすごく勇気付けられた」、「将来は、自分たちが困っている人を助けたい」などとの感想が述べられ、困難な生活を送る子どもたちと、東京、フィリピン、そしてネパールで声援を送る子どもたちの心と心が結ばれたことを実感しました。



1 津波の被害を受けた大船渡小学校。1階はまだ使えない

2 応援メッセージの説明をする柏崎校長(右)

3 小林事務局長から文房具を受け取る生徒会のメンバー

災への緊急・復興支援活動

につきましては、前号(SMILES23号)でもご報告しました。その後も、国内はもとより活動を継続しています。現在、次の5つのプロジェクトを実施しています。

のケア グラム

向き合う大人のための
を実施しています。

4 対人援助者のための グリーンワーク プログラム

被災地で様々な喪失体験をもつ人々に寄り添う
方を支えるプログラムを実施しています。

5 大船渡市での 支援事業

岩手県大船渡市の「災害ボランティアセンター」
などと協働した支援活動です。

〜」と**5 大船渡市を中心にした支援活動**についてご報告します。

5 岩手県大船渡市を中心とした支援活動

チャイルド・ファンド・ジャパンは、東日本大震災で333名の方々が亡くなり、116名の方々が行方不明となった大船渡市で復興支援活動に携わっています。5月より、大船渡市社会福祉協議会が設置した「災害ボランティアセンター」で、酪農学園大学(北海道江別市)が週替わりで派遣する大学生ボランティアと協働し、被災された方々に向けた支援活動に取り組んできました。チャイルド・ファンド・ジャパンのスタッフと大学生ボランティアたちは、市内の避難所や仮設住宅団地での実態調査をおこない、どのようなニーズがあるかを調べました。

この調査を通して、仮設住宅団地で住民同士の交流を促進してコミュニティの形成を支援する必要性が分かりました。そこで酪農学園大学に続いて協働した青山学院大学が派遣する学生ボランティアたちとスタッフは、仮設住宅団地にお住まいの方々にも参加していただき、7月中旬からベンチやテーブルを制作、仮設住宅団地の中に設置しました。住民の方々が完成したベンチに腰かけて憩い、話しに花を咲かせる光景がよく見られるようになりました。

さらに、入居間もない方々が顔を合わせる機会と、仮設住宅団地の近隣の住民たちとの交流を図ることを目的に「夏祭り」や「納涼会」の開催を支援しました。夏祭り当日は、住民と協力して飾り付けを行い、大学生ボランティアは綿菓子やかき氷の屋台を出し、青山学院の教職員や初等部の保護者もボランティアとして駆けつけて、焼きそばや焼き鳥の屋台を出しました。また、皆で盆踊りを踊るなど、子どもたちから大人まで楽しく交流するイベントとなりました。

最後に挨拶くださった住民代表の方が、「このようにコミュニケーションをとれる場をつくってくださりありがとうございます。私たちも一歩ずつ復興のために歩いていきましょう」と締めくくり、全ての参加者の想いをひとつにすることができました。

36年にわたる国際協力で経験してきたように、私たちは、住民の方々が主体となった活動を大切にしながら、今後も復興支援の活動に携わっていきます。



- 1 酪農学園大学(緑色のベスト)との協働が終了した際に大船渡市災害ボランティアセンターのスタッフの方々と。右端前から2番目はプロジェクトマネージャーの船戸義和。その前は調整員を務めた東京事務所スタッフの滝藤奈都子。 2 仮設住宅団地でベンチ作りをする青山学院大学の学生ボランティアたち(地ノ森仮設住宅団地) 3 ベンチでくつろぐ親子(杉下仮設住宅団地の納涼会会場) 4 納涼会で盆踊りをする住民の方々とボランティアたち(杉下仮設住宅団地)

スリランカから vol.9 アーユボーワン



アーユボーワン:シンハラ語で「こんにちは」

チャイルドはどんな服装で 学校へ通うの？

スリランカのチャイルドたちが通う公立の学校には制服があります。白いシャツブラウスに、女の子は青いスカート、男の子は青いズボンです。女の子は写真のように白い制服のこともあります。公立学校に通う子どもたちには政府から制服が支給されていますが、学校に通い続けるためには学用品も必要です。教育を受ける権利を保障するため、スポンサーシップ・プログラムではチャイルドたちが安心して学校に通い、勉強を続けられるように、学校で必要な学用品の支援を行っています。チャイルド・ファンド・ジャパンには、ご紹介している



BOXに入っている日用品

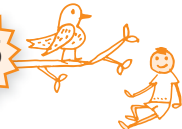
制服の他、教科書、ランプなど、チャイルドの生活に身近なものを紹介する「スリランカBOX*」があります。実物が1つの箱に入っており、見て触ることでスリランカを身近に感じることができます。「スリランカBOX」は貸し出しをしていますので、学校の文化祭や地域でのイベントなどで、スリランカの日常生活や文化を紹介してみませんか？ご希望の方は事務局まで！

*同様に「フィリピンBOX」、
「ネパールBOX」もあります。



チャイルドの
制服

ネパールから ナマステ! vol.5



ナマステ:ネパール語で「こんにちは」

チャイルドの成績はもう一息？

ネパールのチャイルドをご支援くださっているスポンサーの皆様には8月に初めてのチャイルドの成長記録をお届けしました。その中に記載されているチャイルドの「総合成績」がずいぶん低いとお感じになったのではないのでしょうか？

チャイルドたちは年度末に進級テストを受けますが、ネパールの公立学校では、進級テストの総合得点が32%未満だと進級できません。(右の表を参照)

最貧困層に属するチャイルドの両親の1/3は、読み書きができず、子どもの宿題を見てやる事ができません。家族の中で初めて中学校に進級するのが「チャイルド」という家庭も多いです。このような環境の中で、チャイルドたちの成績を向上させるため、今年度は「補習教室」に力を入れていきます。

成績の付け方とチャイルドたち300名の成績

総合得点 (%)	成績	チャイルドの人数	割合 (%)
~32未満	落第	17	6
32-44	非常に低い	176	58
45-59	低い	77	26
60-79	標準	29	10
80~	高い	1	0.3

合格点 (32%)

学年	進級テストの科目数	総合点	合格点 (32%)
小学校 (1-5年生)	6	600	192
前期中学校 (6-8年生)	9	700	234
中期中学校 (9-10年生)	8	800	256



5年生の補習クラス



家庭訪問をしてチャイルドと勉強について話をするスタッフ

- 【ネパール】
 - ・子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト
- 【フィリピン】
 - ・子どもが読書に親しむプロジェクト
 - ・バラワン少数民族生活改善プロジェクト
 - ▶ 協同組合強化支援プロジェクト

故細野雅央様からの ご寄付による教育支援プロジェクト(最終報告)

- 協力期間: 2008年9月1日～2011年8月31日
- 支援対象: ネパール東南部マホタリ郡およびダヌシャ郡の公立校5校
(生徒総数約2,200名と学校区に居住する5歳～14歳の未就学の子ども約500名)
- 協力団体: Aasaman Nepal ※ ※ネパールの平野部、ダヌシャ郡を拠点とするNGO。子どもの権利推進を目標に、教育事業や児童労働撲滅を目指す活動を行う。

故細野雅央様からのご寄付を通して、より多くの子どもたちが安心して教育を受けられることを目的として実施したプロジェクトが今年8月末日をもって終了しました。対象2郡は、15～24歳女性の識字率が23～39%と非常に低く、また1教室あたりの平均生徒数は120名でした。事業期間3年間で、支援対象となった小中学校5校のうち、全校に各1棟合計22教室、4校にトイレ、2校に手押しポンプを建設し、全校に机と椅子を提供しました。これらの5校には「学校に通っていない子どものための補習教室」から、8～14歳の682名が学校に編入しました。この他、ボランティア教師の報酬、教材、教員研修、最貧困層の生徒への制服と学用品支援や、生徒会や保護者、地域住民との会合を行いました。

この結果、プロジェクト開始時に73%だった5～14歳の子どもへの就学率が、2011年6月時点で91%に、1教室あたりの平均生徒数は71名に減りました。事業の最終評価では、学校に通う最貧困層と女子の増加、保護者の教育への関心の高まり、生徒・保護者・住民の学校運営への参加の増加、学校運営委員会と教員の意識と運営能力の向上などが評価され、事業終了後も成果の持続が期待できます。

※細野雅央様は、新生児期に脳性マヒになり、子ども時代に辛苦を経験なさいました。その経験を元に世界の子どもたちの幸せを願い、上記のプロジェクトのためにご寄付をくださいました。細野雅央さんは、2008年10月9日にご逝去なさいました。チャイルド・ファンド・ジャパンでは相続財産や遺贈に関するご相談をお受けしております。連絡先: 募金グループ



古い校舎

完成した校舎

学用品を受け取る子ども

校舎の完成式典。細野さんの遺影と記念プレート。左から2人目は田中真理子ネパール事務所所長

新しいプロジェクトが開始されました! 「協同組合強化支援プロジェクト」 ～地域の自立に向けたパグ・アサ貯蓄貸付協同組合の新たな船出を支援します～

- 協力期間: 2011年7月1日～2012年5月31日
- 支援対象: パグ・アサ協同組合の組合員・預金者 合計772人および組合活動地域の住民
- 協力団体: センター番号35(セント・マグダレーヌ・オブ・カノッサ・センター)、パグ・アサ貯蓄貸付協同組合

ルソン島カビテ州ダスマリニヤスのパグ・アサ貯蓄貸付協同組合は、スポンサーシップ・プログラムの支援の一環として、地域住民を高利貸しから解放することを目的に2000年に設立されました。チャイルドの母親たち37人がP2,700(約5,940円)の元手で貸付から活動を始めたこの組合ですが、今では465名(2011年度現在)の組合員を擁し、7種類の貸付、生命保険、会員割引サービス、お米の販売やコピーサービスなどに活動の幅を広げてきました。2010年にはその業績が認められ、カビテ州で最も優れた協同組合トップ3に選ばれました。協同組合は、事務所スペースをセンターから間借りしてきましたが、会員拡大に伴い手狭となったため、自前の事務所を建てるため2010年12月に土地を見つけ、土

地購入費の分割払いを開始しました。事務所を持つことにより、協同組合が地域住民の一層の信頼を獲得し、地域のための活動を継続する環境が整います。地域の自立に重要な働きが期待される協同組合の活動をより持続的なものとするために、チャイルド・ファンド・ジャパンは事務所建設を支援します。



土地購入を決議した組合の総会

協同組合のスタッフたち

インフォメーション コーナー

お知らせ

グローバルフェスタJAPAN2011に今年も出展します。

今年は例年の国際協力活動に加え、東日本大震災への支援活動に加わった学生ボランティアの報告会を実施します。この「SMILES」をお持ちになってブースに立ち寄ってくださった方には素敵なプレゼントが!ぜひご来場ください。

日時 2011年10月1日(土)、2日(日) 10:00~17:00

場所 日比谷公園

※報告会の詳細については、後日ホームページでお知らせいたします。

お願い

夏募金キャンペーン、厳しい状況です!

6月よりご協力をお願いしていますフィリピンの「子どもが読書に親しむプロジェクト」に8月20日現在、3,154,285円(560口)のご協力をいただいておりますが、目標600万円に対してほぼ半額です。フィリピンの子どもたちのため、引き続きご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



子どもたちに届けられる本

ご報告

ネパールのチャイルドの成長記録をお届けしました。

昨年からはまったネパールでのスポンサーシップ・プログラム。現在350名のチャイルドたちが皆様からのご支援で学校に通っています。8月中旬、最初の成長記録をネパールのスポンサーの皆様にお送りしました。チャイルドの1年の成長を、チャイルド本人と家族の写真などでご確認ください。



チャイルドの成長記録と支援地域からの報告

お知らせ

Twitter(ツイッター)始めました!

チャイルド・ファンド・ジャパンはTwitter(ツイッター)を始めました。チャイルドたちへの支援活動、東日本大震災への支援活動、団体の情報を随時つぶやいていきます。ぜひフォローしてください。
<http://twitter.com/#!/ChildFundJapan>



QRコード

お願い

クリック募金にご協力ください!

クリック募金のクリック数が減ってきています。どうぞご自宅や職場のパソコンからクリックをお願いします。クリック募金はチャイルド・ファンド・ジャパンのホームページにある左記のバナーをクリックすればどなたでも簡単にできます。(クリックした方が寄付金の請求をうけることはありません。)



<http://www.childfund.or.jp/>

お願い

マイレージをご寄付ください

東日本大震災発生後、デルタ航空会社がスカイマイルプログラム(同社のマイレージプログラム)のメンバーに被災地支援を行うチャリティ団体にマイルの寄付を呼び掛けてくださいました。チャリティ団体として参加しているチャイルド・ファンド・ジャパンへのマイルのご寄付も増えています。ぜひこの機会に皆様もご協力ください。当団体にご寄付いただいたマイルを航空券に換え、スタッフが支援活動のため出張する際に用いています。☎0570-077733またはチャイルド・ファンド・ジャパンのホームページ(<http://www.childfund.or.jp/>)にあるバナー(右図)をクリックしてください。



お知らせ

税の優遇制度拡充のお知らせ

2011年8月18日の税制改正により認定NPO法人への寄付金(個人のみ)について、税の優遇制度が拡充されました。チャイルド・ファンド・ジャパンは国税庁から「認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)」として認定されています。当団体へのご寄付は「特定寄付金」として寄付金控除等の税の優遇制度の対象となります。2011年(平成23年)1月1日分以降の特定寄附金に関して、従来の所得控除方式に加え、税額控除方式が創設されました。下記の①、②のどちらか有利な方を選択適用することができるようになります。雇用形態、家族構成、住居などの条件によりどちらが有利になるか変わる事があるため、お近くの税務署でご相談されることをお勧めします。

①税額控除(新設された寄付金特別控除)

[その年に支出した特定寄付金の合計-2,000円] × 40% = 寄付金特別控除 (税額が直接減額されます)

②所得控除(今までの寄付金控除)

[その年に支出した特定寄付金の合計-2,000円] = 寄付金控除額 (課税される所得を減額します)

詳細は以下の国税庁のホームページでもご覧になれます。
<http://www.nta.go.jp/tetsuzuki/denshi-sonota/np0/01/aramashi.pdf>

ChildFund Japan

Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンはここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

ビジョン(目標)

すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

ミッション(使命)

生かし生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

チャイルド・ファンド・アライアンス

ChildFund Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

スマイルズ
＜チャイルド・ファンドだより SMILES＞ 2011年9月発行
〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
理事長 深町正信(青山学院名誉院長) 事務局長 小林毅
TEL. 03-3399-8123 FAX. 03-3399-0730
E-mail: childfund@childfund.or.jp
URL: <http://www.childfund.or.jp/>

〈デザイン〉
モスデザイン研究所
〈印刷〉
有限会社東西印刷



大豆油インキを使用